

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 11月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0177300043		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	〒075-0036 北海道芦別市旭町60番地1 (電 話) 0124-22-5151		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年10月27日	評価確定日	平成21年11月22日

【情報提供票より】 (21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 14人 非常勤 2 人, 常勤換算15.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	階建ての 1 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200~27,900 円		
その他の経費(月額)	光熱費 日額 500円 ・ 暖房費 日額 150円 (10月~4月)		
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (10 月 27 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	7 名	要介護 2	5 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 85.8 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仁恵会芦別精療院 医療法人社団はぎわら歯科クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市街地から少し離れた静かな環境にあり、近隣には大きな観光施設や、高齢者介護福祉施設、母体組織の病院があり、その一角にL字型をしたホームが違和感なく建っている。ホームの広い中庭には、家庭菜園、花壇があり職員と一緒に育てており、利用者は穏やかな環境の中でゆったりと生活している。母体法人と医療面、職員研修、行事参加、災害対策など協力体制が確保されているのも心強い。いつも利用者本位の意識を大切に、その人らしく誇りのある暮らしを続けることを、施設長、職員が積極的に熱意を持って支援している。施設長、職員の信頼関係も厚く職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、地域密着型サービスのより所とする理念の標榜が課題とされていたが、職員全員で理念の見直しをはかり日々の生活の中で地域との関係づくりを重視した理念になっている。重度化や終末期に向けた指針書、同意書の書類の整備も整い家族に説明し改善に至っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が日々のケアを振りかえる視点で、自己評価委員会が中心となり自己評価項目に取組み検討が行われている。評価後も改善シートを活用して課題を協議し、よりよいケアに結びつけるように取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度実施され、地域包括センター長、家族代表、町内会長、事業所から施設長が参加されている。会議では事業所の状況報告を行うと共に、参加者からそれぞれの立場から活発な意見をいただき、それを運営に活かされている。内容は会議録にきちんと記載されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情窓口と対応方法を記載されている。玄関に「ご意見箱」を設置している。また、気軽に意見、要望、不満を言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮し、出された意見等について会議を開いて検討し、そこでの意見を運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が散歩時に挨拶を交わすなど気軽に声を掛け合う関係が出来ている。町内会に加入しており清掃活動、育成会の廃品回収に参加を通じて地域の一員として受け入れられている。事業所の行事(焼き肉パーティ)に地域の方も参加してくれるなど交流を持っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念は「より豊かに」「ゆったりと」を掲げ、パンフレットにも事業所が目指している指針が示されていたが、このたび全職員が意見を出し合って理念の見直しを図り、日々の生活の中で地域との関係づくりを重視した事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念は玄関ホールに掲示し、職員研修などで話し合い意識付けを図るとともに、職員のネームプレートの裏に理念を表示して日々の確認に努めている。事業所の目指す質の高いケアに向けて取り組んでいる。		
ネームプレートの裏に理念を表示して日々の確認に努めている。事業所の目指す質の高いケアに向けて					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わすなど気軽に声を掛け合う関係が出来ている。町内会に加入しており清掃活動、育成会の廃品回収に参加を通じて地域の一員として受け入れられている。事業所の行事（焼き肉パーティ）に地域の方も参加してくれるなど交流を持っている。		
交流を持っている。					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が日々のケアを振り返る視点で、自己評価委員会が中心となり自己評価項目に取り組み検討が行われている。評価後も改善シートを活用して課題を協議し、よりよいケアに結びつけるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度実施されている。会議では事業所の状況報告を行うと共に、参加者それぞれの立場から活発な意見をいただき、それを運営に活かしている。内容は会議録にきちんと記載されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会、市介護保険課と情報交換や研修など、事業所運営で意見を仰ぐなど日常的に連携を図っている。また、中学生の授業の一環として、職場体験の受け入れを行うなど事業所の機能の活用を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に事業所便りを発行し、日頃の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等について報告を行っている。また、家族の来訪時には現金出納帳の確認をしていただくなど詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口と対応方法を記載されている。玄関に「意見箱」を設置している。また、気軽に意見、要望、不満を言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮し、出された意見等について会議を開いて検討し、そこでの意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2つのユニット間で職員が日常的に行き来する機会も多く、利用者職員とも馴染みの関係が出来ている。新しい職員が入った場合は利用者が少しでも不安なく受け入れが出来るように馴染みの職員と一緒に勤務になるように勤務体制の調整を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体組織の研修会が月1度実施それに職員が参加している。また、施設長が講師となり職員全体の知識の向上とケアに対する理解を深めるように内部研修に力を入れている。外部研修参加にも職員の意欲を大切にしながら積極的に実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホームは当事業所1ヶ所しかない。同業者との交流や連携の必要性を十分に認識しているが地域性もあり同業者との交流は難しさもある。近隣の高齢者介護施設やサテライト型居住施設、デイサービス事業所と連携を深め交流を行っている。	○	市内に同業者がないことで、勉強会や相互訪問など実施には難しさもあると思われるが、近隣自治体の事業所と職員の交流や情報交換をするなど知識の向上とケアに対する理解を深める取組みが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の特色について説明し利用者と家族が見学を行い、本人が納得した上でサービスを利用できるように職員が事前訪問し面接を行っている。見学時に家族と一緒に昼食をとったり入浴される方もいる。利用者が安心して馴染めるように家族と相談しながらサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との毎日の関わりの中で、本人の能力体調に合わせた家事活動や家庭菜園、花壇の手入れ、階段のペンキ塗り、雑巾縫いなど利用者と共にしながら学ぶことも多く、共に支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々利用者との関わりの中で会話、動作、表情から本人の希望や意向を大切にしながら把握に努めている。利用者一人ひとりの個別性を大切にしながら、その人らしさを尊重し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画3ヶ月毎にアセスメントを行うとともに、利用者の日々の生活や見守りの中で本人の思いと家族の要望、職員からの情報をもとに介護計画を作成している。職員間のチームワークがよく活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載されている個別の期間を目安に評価を行い、計画的に見直しが行われている。利用者に変化が見られた場合には、本人、家族、職員間で話し合い速やかに対応するような体制がとられている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院、利用者の希望に応じて外出、家族の状況に応じて多機能性を活かした柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にかかりつけ医への受診支援を行っている。また、母体法人の医師が月2回往診しており、日常の健康管理を行っている。事業所では医療の連携と家族への報告を適切に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援は、契約時の段階から事業所の方針や事業所の出来得ることを、本人、家族に説明している。指針書、同意書の書類の整備も整い家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者一人ひとりの意思と尊厳を大切に、やさしく声掛けや敬意のある対応に日々配慮している。	○	ケアプランのファイルが居間に置かれているので、記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した保管場所の確保に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、利用者の希望を大切に考え生活のペースを乱すことなく、押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の大きな楽しみとしてとらえ利用者の嗜好に配慮した献立となっている。本人の食べる意欲を優先させながら、自力でゆっくりと食事ができる支援に努めている。食事の後片付けなども職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回で午後の時間帯で入浴を行っているが、利用者の希望や体調に合わせて、予定以外にも個別の支援を行っている。入浴前にはバイタルチェックを行い、体調の変化も見逃さず入浴を楽しんでもらえるよう見守り、介助の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、家族からの情報をもとに生活歴、身体状況などを念頭におきながら、家庭菜園、家事、買い物、習字など利用者の意欲や希望など力量に合わせた楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭にある家庭菜園、花壇の水やり、散歩、買い物など、日常的に利用者の希望に合わせた支援をしている。また、近隣の高齢者介護福祉施設入所者に面会に行くなどの支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の外側は施錠はしていないが、危険防止のため玄関ドアが内側から開かない対策をとっている。出入りはセンサースイッチで行い家族にも説明し了解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や法人の協力を得て日中と夜間帯を想定した避難訓練を実施している。今後は冬場を想定した訓練の実施も検討している。また、町内会長をはじめ地域住民との協力体制も整っている。市の補助金によりスプリンクラーの設置が決定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの食事の量、水分量など細かく記録している。また、利用者の体調に応じて食事の量を加減したり、医師の指示のもと適切な水分量を摂取できるよう配慮するなど状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	L字型の平屋の建物で共用空間は清潔に保たれ、対面式キッチンからは利用者の動きが見え、居間の大きな窓からは中庭の花壇の花が見え季節感が感じられる。居間、食堂、小上がりなども広くゆったりと明るく利用者が好きな場所で思い思いに居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、家族の協力を得て本人が使い慣れた家具、仏壇、小型冷蔵庫、テレビ、日用品など本人が大切にしている品々が持ち込まれている。安心して過ごせる、その人らしい部屋になっている。		

※  は、重点項目。